

卓話

平成 19 年 11 月 27 日

『ゆとり教育からの転換と国際化時代』

東海女子短期大学学長 神谷真弓子様

1.今の日本は大人も子どもも・・・

- ・ いじめ、不登校、モンスターペアレンツ、どこでもクレーマーの時代
- ・ 東短の授業風景は 20 年で様変わり
- ・ 推定 1 万人に達する病気休職者、教育現場は疲労の極限状態



2.日本の経済・社会の変化と教育方針の変遷

- 1950 年～1960 年 経済・社会的背景の大きな構造的変化
- 1970 年代～80 年代 高度経済成長の終焉（物質的豊かさの達成）
不況下のサバイバル競争時代
「詰め込み教育」から「ゆとりある教育」へ
- 1984 年 中曽根内閣の行政改革の一環として臨時教育審議会が発足
- 2002 年 「ゆとり教育」の総仕上げ

3.ゆとり教育とは

- ・ 学習内容 3 割減 学校週休 2 日制の完全実施 総合的な学習の時間導入
- ・ 子どもの学力低下や学力格差が問題に

4.国際化時代の日本の教育方針

- ・ 各務原市の取組み「豊かな心」教育、読書や読み聞かせで学力向上
- ・ 日本の教育方針としての慎重で公平な論議の必要性
- ・ 国際化時代こそ、基礎学力を付け、自国の歴史や文化について学ぶことが大切
- ・ 50 年～100 年の経済情勢や政局に左右されない一貫した教育理念を
- ・ 子どもには、家庭、地域、学校、社会総力で「自己抑制力」や「互譲の精神」を学ばせる
- ・ 知育・体育・徳育の重視 子どもに得意分野を

◆参照 ○古人の知恵

例：西郷隆盛 「天を相手にせよ」・・・人を相手にせず、天を相手にせよ。天を相手にして、己を尽くし人を咎めず、我が誠の足らざるを尋ぬべし。
「我を愛する心を以て人を愛する也」